

入
選

— 大学・一般の部 —

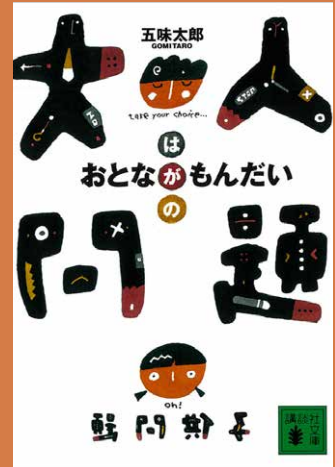
「普通の裏側」

高田江利子さん

推 し 本：『大人問題』

著 者：五味太郎

推したい相手：普通が上手くできないなと
感じているこども



「普通の裏側」 高田江利子

私が推したいのは、五味太郎氏の『大人問題』である。絵本作家として著名な著者が、こどもの問題であるとされていることの多くは大人側の問題であると論じる内容で、短い段落の塊が連なる形でまとめられていてとても読みやすい。1996年に刊行され、2001年に文庫化された割合古い本である。それでも私がこの本を推したいと思ったのは、自戒の念と少しでも多くのこどもたちが過ごしやすい社会になって欲しいという願いからである。私には小学生のこどもが二人いて、どちらも学校に行っていない。いわゆる不登校である。幼稚園からそうなりそうな予兆があったので、教育相談に事前に相談はしていた。親の心配を他所に、それなりに入学を楽しみにしている様子だった兄は、一週間で小学校に行けなくなった。その一週間、彼は毎日私に楽しかったよと報告していた。行き渋りの激しかった幼稚園の時も、先生からは「来たら楽しそうに過ごしています」と聞かされていた。彼は、大人がどうして欲しいのかをわかっていて、だけれどそれをやり続けるとあまりに心の負担になるようだった。それは腹痛というわかりやすい形で現れたので早くに気づくことができたけれど、我慢し続けていたらもっと回復に時間がかかったかもしれない。今ではのほほんと自宅学習とフリースクール通いをしている私たちだが、初期はそれなりに狼狽え右往左往した。言葉では無理を強いることはなかったけれど、なんとか理由を探ろうと幼稚園や市の教育相談に通い、児童精神科に行き、育児書や不登校関連本を読み漁った。知能検査の結果説明で「世界の見え方が違うんですよ」という医師の言葉を聞いて、しんどい理由があった事に安堵した。理由などこどもの様子一つで十分だったのに、客観的な根拠を欲しがった。もちろん彼らのしんどさを理解するのに大事なことはあったのだけど、あの時動き回っていた一番の動機は、人に説明するためのわかりやすい免罪符が欲しいという多分に私の自己中心的な都合だったと今では思う。本書のいう通り、大人である私の問題だった。最近久しぶりに本書を再読し、どうしてあの混乱期に読み返さなかったのだろうと後悔した。特に『どうしても義務と服従が好きな大人たち』の章では

不登校についても触れられていたからだ。当たり前を当たり前にできて欲しい、できないのなら理由が欲しい。そういう大人の私のエゴは口に出さずとも伝わってしまう。もっと早くにこの本の内容を思い出していれば、こどもに「(みんなと同じように学校に行けないなんて)僕は普通じゃないから」なんて言わせなくて済んだだろう。正解である「普通」がどこかにあって、そこから外れるのは悪いことだと思わせてしまった。本書を購入したのは大学生の時で、私は「こども」に近いものとしてこの本を読んで、そうそう大人ってそういうところあって困るよなと思っていたはずなのに、いざこどもを持つ親になるとそんな事すっかり忘れて「世間体」や「当たり前」に囚われてしまっていた。著者は多くの大人(特に日本的な文化が染みついた大人)が忘れてしまったこどものものの見え方で世界を見ることができるんだなとびっくりしてしまう。大人になる過程で「こういうもの」だと学習したことの多くが大人の都合で作られた「普通」で、それは少し変じゃない?ということに気づかせてくれる。私のこどもたちのようにわかりやすく「普通」からはみ出しているこどももいるけれど、はみ出さないように必死に頑張っているこどもたち、本書でいうところの「大人の満足のために、ものすごく無駄な時間を過ごす」ような状態のこどもたちは沢山いて、大人からはあまり見えていない。見えていないというよりも、見えないふりをしているような気がしている。かつての私のように、その方が大人が楽で都合がいいから。少しずつ変わっている事はあるけれど、あまりに遅々としていて、変化した頃には困っているこどもはもう大人になっていたりする。これも大人の時間軸で物事が進んでいるからだろう。著者に共感するところもあれば、それはちょっと過激だなと感じるところもある。なんにせよ、当たりの裏側から物事を見ることを示されて、固定観念がバリバリと剥がれ落ちる心地がする。本書を読んで「当たり前」を疑ってくれる大人が増えれば、きつとこどもたちの息はしやすくなるだろう。私もいまだに「こうあるべき」に囚われることがあるので、その時には本書を読み返したいと思う。そして今、うまくみんなと同じようにできないな、なんだか合わせるのがしんどいなと感じているこどもたちへ。この本を読んだらわかるように、変なのはあなたじゃなくてこの大人社会の方かもしれないので、どうか自分を責めないで欲しい。そしてその違和感を大事に持ったまま大人になって欲しいと願う。